

もっと仲良くなれると確信した 心の隙間を埋めた日韓高校生

実践女子学園中学校高等学校 **朝倉萌子**

朝倉さんは「日韓高校生交流キャンプ」に応募して選ばれ、ソウルで開かれた会合に参加しました。100人の日韓高校生が集い、両国から5人ずつ10人で1チームを形成。計10チームが独自のビジネス企画を創出し競います。

「やっパン」という食べ物がありますか？日本ではごく一般的な焼きそばパン。ところが韓国にはありません。朝倉さんのチームはこれの販売を企画しました。まずは韓国人の市場調査。焼きそばパンを知らない人が91%。でも食べることを拒否しないと答えた人が77%もいて、とても興味をもたれたことがわかりました。これは市場開発ができる！そして具体的な商品を考え、価格を決め、広告や売り方を企画し、テイクアウト用の箱も作りしました。そして最後に事業計画

の発表。あつという間の4泊5日でした。大学生が通訳をしてくれましたが、直接英語で、さらには手を使ったり絵を描いたりしてコミュニケーションを深めていきました。

実は参加する前、朝倉さんには不安もありました。でも一緒に作業する間にその不安はどんどん溶け去って、お互いの心は近く、熱くなつていきました。これが真の国際交流。そんな朝倉さんの体験談の作文をぜひどうぞ。



実践女子学園中学校高等学校 (東京都渋谷区)



朝倉さんチームの10人のメンバー。



朝倉萌子さん



本が大好きな朝倉さんは図書委員としても活躍。(図書館入り口の委員が作ったディスプレイの前で)



Viva! Communications

私が日韓高校生交流キャンプに参加したのと思っただけで、知らない国の人たちのことをもっと知りたいと思っただけで、たかうだ。しかし不安も大きかった。周りの大人から「韓国へ行くのはいいけれど、仲良くなれないうらら」とか「ケンカにならう」とか「韓国は反日感情が強い」と常々言われていたから、韓国へ行くのには、前日には遂に胃が痛くては方になく、こまめに食べていた。実際韓国に着いて現地の学生と対面した時、最初は初めあまり喋ってはいけなかった。友達を探り合っていた。友だち作りのプログラムが終わって、お互い慣れると、段々と皆話が弾んできた。お互い試してみると、日本の学生と同じく、テレビドラマも好きだし音楽も好き。女の子は恋愛話でも盛り上がった。違うのは女

SCHOOL

Viva! Communications

葉と文化だけである。私が仲良くなった韓国人のみんなの中には反日感情がどこにもなかった。キャンプ後半になって初めて分かったことだが、韓国人の学生もキャンプに来るまで「日本人は韓国人を嫌っている」と思っていた。韓国と日本は「お隣さん」である。東京から沖繩へ行くより、韓国へ行った方が近い。そんなお隣同士であるのに、お互い知らないことが多すぎるとキャンプに参加して思った。確かに日本国内でも各地域同士で知らないことは多い。しかし、お互い「あそこ」という人たちは私たちが嫌っていると思ったりはない。なのに韓国人と日本人はどちらとも「あの国の人たちは私たちが嫌っている」と思っている。これは、過去の歴史的な出来事も関係しているから。現在の政府間の関係も影響しているかもしれない。でも、お隣さん同士、私たちはもっと仲良くなりたいと思う。

SCHOOL